



リサーチ・クリップ

2010/11/19 No.28

リサーチ・クリップでは、最近関心の高まっている環境問題や、企業の従業員・地域社会といった様々なステークホルダー（利害関係者）との関わりなどに関する記事や情報を紹介します。

ESG

国連環境計画 「生態系と生物多様性の経済学」最終報告書を発表(10月20日)

国連環境計画（United Nations Environment Programme：UNEP）は、「生態系と生物多様性の経済学」（The Economics of Ecosystems and Biodiversity：TEEB）プロジェクトの最終報告書を発表した。

「生態系と生物多様性の経済学」プロジェクトは、2007年3月にドイツのポツダムで行われたG8環境大臣会合において承認され、生物多様性^{（注）}の喪失について、経済的な観点から研究を行ってきた。地球温暖化による経済への影響を分析したスタン・レビューの生物多様性版とも呼ばれている。

同報告書は、「序論」「生態系サービスの価値を理解し、立証し、測定する『生態系と生物多様性の経済学』のアプローチ」「段階的なアプローチの実践」「結びと提言」などの各章で構成されており、以下では「序論」の内容の一部について紹介する。

「生物多様性」は、「自然」と「経済」、「人間の生活の豊かさ」（human well-being）の関係について考える際に重要な概念である。最近の文献ではしばしば、「自然」と「経済」との関係は、自然資本と生態系サービスの概念を用いて説明されている。

「自然資本」とは、「将来に亘って生態系サービスなどの価値のあるフローを生み出す資本」としての自然を意味する。「生態系サービス」は、自然資本によって生み出される自然からの恵みを示す。通常「サービス」とは、金銭を代価として得られるもののうち、形がないものを指すが、「生態系サービス」は、有形無形を問わず、人々が生活を維持していくために必要な、生態系が果たしている機能を指す。言い換えれば、生態系サービスは自然資本から社会への配当と考えることができる。十分な自然資本の蓄積があれば、人々は生態系サービスを持続的に受けることができ、人間の生活の豊かさも維持される。

国連の呼び掛けにより2001年から2005年まで行われた生態系に対する初の大規模な総合評価である、ミレニアム生態系評価（Millennium Ecosystem Assessment：

（注）生物多様性は、1992年の生物多様性条約において、「陸上、海洋その他の水界及び、これらが複合した場に生息あるいは生育する全ての生物の種内・種間及び生態系の多様性を含む変異性」と定義されている。

MA)では、生物多様性によって支えられている、生態系サービスによる人間の生活の豊かさへの貢献を4つに分類している(図表参照)。

そのうち最も経済的価値で評価することが容易な生態系サービスは、食料や水などに代表される「供給サービス」である。加えて、最近になって、炭素貯蔵による気候調整などの、「調節サービス」が経済的価値で評価され始めた。反面、「文化的サービス」や「基盤サービス」の評価は不十分であり、生態系サービス全体の経済的価値が評価されるには至っていない。

近年の調査から、経済成長や人口増加などによって、生物多様性が失われていることが明らかになり、生態系がこれまで通り、社会に生態系サービスを供給できなくなることが懸念されている。生態系や生物多様性の経済的価値全てを評価できていないことも自然資本の劣化を加速させている要因の一つである。その例として、企業による森林の伐採が挙げられる。

企業は経済的な価値で諸要素を勘案して、利益が見込めると判断した場合、森林の伐採を行う。しかし、切り開いて農地にしたり、材木を販売したりするために森林を伐採する企業は通常、木々を伐採することによって失われる生態系サービスに対する補償を行わない。そのため、しばしば森林に日々の暮らしの糧を頼っている農村の貧しい家庭が将来的に犠牲となる。

生態系サービスの経済的価値を事業の採算性要素に組み入れて考えた場合、企業が森林伐採を行うべきかどうかを判断する際には、企業活動により劣化する自然資本によって失われる生態系サービスを補填する費用も考慮されるべきである。しかし、現状では、自然資本から生み出される生態系サービスの経済的価値が明確な形で評価されておらず、森林が失われ、自然資本の劣化が続いている。

同報告書の他の内容については、下記URLにて参照できる。

http://www.teebweb.org/LinkClick.aspx?fileticket=bYhDohL_TuM%3d&tabid=924&mid=1813

図表 ミレニアム生態系評価による生態系サービスの4分類

生態系サービスの例	例
供給サービス	食料、水、植物由来の医薬品など
調節サービス	湿地帯における汚染物質のろ過、炭素貯蔵や水循環による気候調整、昆虫などによる植物の受粉、自然災害からの防護など
文化的サービス	レクリエーションの場、精神的・審美的な価値、教育的効果など
基盤サービス	土壌形成、一次生産、栄養塩循環など

出所：国連環境計画「The Economics of Ecosystems and Biodiversity」などより NFI 作成

(社会システム研究所 CSR 調査室 曾我 昂平)